

※保護者のご承諾をいただいた赤ちゃんを、
撮影・掲載しています。

あくあく育て

乳 幼 児 健 診

(平成22年5月21日=千寿苑)



ぼく・わたし

虫歯なかったよ！

～4歳児
歯科検診～



「そんなまちを」を合唱する参加者

5月22日、矢部中学校体育館で第15回「5・23差別をなくす山都地区集会」が開催されました。約650人の参加者がありました。本集会は部落差別をはじめ、いじめや仲間はずしなどのあらゆる差別をなくしていくことを目的に、子どもたちが主体となりながら、大人も共に学び合う場です。節目の15回という

こともあり、これまでの集会の歩みを記した年表を会場に展示しました。
開会前のオープニングを務めたのは、矢部太鼓（やきょうだいこ）。児童館での日ごろの練習の成果を、力強いバチさばきで披露しました。開会後に登壇したのは、同和保育園の園児と保護者。「小鳥のうた」、「どんなことだろう」と、手話を交えて「にじ」を、爽やかに合唱しました。ステージ横に掲示された、園児が描いたカラフルな大きな虹の絵がうたえを一層きれいに、いろどりました。
矢部同研サークルは、人形劇を通して偏見や思い込みが差別につながるということを、分かりやすく問題提起しました。
次に、子どもたちの決意表明がありました。解放子ども会小学部は、狭山事件の学習を通して、「決めつけをせずに、大事なことをしっかりと伝えたい」と発表しました。同和保育園はんだ組と卒園の新生一年生は、児童文学者で詩人のよだじゅんいちさんの詩と、園児が創作した詩を感性豊かに読み上げました。御岳小学校6年生は、水俣病や目丸山・内大臣の環境学習、部落差別の聞き取り学習などを通して学んだことを発表。それ

ぞれの問題の根っこは同じだと指摘し、「おかしいと思ったら一人でも反対することが大事」「うわさ話をそのまま信じるのではなく、自分で調べるようにしたい」「自分が変わらないうちを、周りのことを変えることはできない」などと伝えました。さらに、「川はだれのもの」を合唱し、川や海は生きているすべてのものだから大切にしよう、と歌い上げました。
矢部中学校生徒は、学年ごとに日ごろの学習や日常生活から感じた差別に対する思いを発表。「間違っていることははっきりと言いたい」「リボン登校で差別やいじめをなくす気持ちを表したい」「狭山事件を学習することは自分のためだと分かった」「自分に負けたことがあるので、乗り越える力をつけたい」などと訴えました。
解放子ども会高校生の部は、「子どもと子どもの間に壁ができることがある。そんな壁をみんなでなくしたい」と決意表明しました。
また、これらの決意表明を受けて、子どもたちが前に出て、「いじめを見たが恐くてなにもできなかった。これからは勇気を出して止めたい」「人を傷つけたことがあるので、これから



は気をつけたい」などと意見や感想を発表し応えました。
大人の決意表明では、部落解放同盟矢部支部から、「同和教育はすべての人を大切にする教育。花には水、人には愛の気持ちで、差別をなくす輪を広めていきたい」との発表がありました。
最後に、「子どもたちの姿をとおりて、部落問題と自分とのかかわりに気づき、解放に向けた行動へ高めていこう」などと記した集会宣言を採択。併せて、「学力保障・進路保障 私たちの闘いで子どもたちの未来を切り拓こう」など5項目のスローガンを採択。
締めくくりに、「どんなときでも人間らしく生きよう そんな思いをみんなであたためよう」との歌詞に差別をなくす思いを託し、「そんなまちを」を参加者全員で合唱。山都町全域に人権を大切に作る輪が、深く確実に広がっている手ごたえを参加者は実感しながら、会場を後にしました。

差別のない町をつくろう 第15回「5・23差別をなくす山都地区集会」

わたしたちの人権
だれもが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人権』です

64